



NO. 1
2019.10.17

「ファミリースポーツまつり」と 今後の保育の見通しや思い

○ファミリースポーツまつりについて

19日（土）の開催は中止いたします。

この日はファミリースポーツまつりでお仕事に都合付けていただいていた事と台風後、13日から職員の連続勤務が続いていることもあり保育もお休みさせていただきます。

ファミリースポーツまつりの開催については、14日（月）に職員で話し、19日（土）の開催は見送ることで決定しました。災害に遭ったこんな時こそ、みんなで集まり元気に励まし合い、そして保育園からは感謝の思いを伝えたいとも考えていました。しかし、実際に生活の場が壊され先の見通しもはっきりと見えない渦中におられる保護者の方そして職員の思いとして、それは“いま”ではないと考えを改めました。

ファミリースポーツまつりは、ぞう組の子どもたちにとって、とても大きな行事です。実際にこの数日、園庭に出ると竹馬や棒のぼり、そして初めの言葉の練習と徐々に気持ちが高まり盛り上がっている姿が見られました。卒園児が集まる1/2成人式でもファミスポが楽しかった、という卒園児の声が多く聞かれます。ここで苦手意識が自信に変わる子の姿もありました。

台風被害の後、ぞう組の子どもたちと担任2名だけ、本来の居場所から離れた生活を送る事となりました。そんな中でこの行事を迎え、心ひとつに取り組むことは難しいとも思います。

卒園児も参加できる大きなイベントです。これからあと半年、子どもと共に過ごす中で、時間が経過し新しい形のファミリースポーツまつりが開催できるかどうか、じっくりと検討していきたいと考えています。ぞう組の子どもたちには是非ファミスポの舞台をつかってあげたいという思いでおりますので、見守りをどうぞよろしくお願いいたします。

○台風後保育を再開して・・・

ぞう組がそろってお引越し

2階のみで保育を行わなければならない中、その空間で何名の保育が可能か、そして他園へ受け入れてもらう形をどのようにつくっていくのか、時間のない中考えしました。何園かに振り分けになってしまえば職員もついていけない…、非常につらい心境の中、世田谷区保育課から公立の奥沢西保育園で20名まで受け入れ可能だという



知らせをいただきました。そのお陰で、ぞう組全員が一緒にお引越し生活を送れる事になりました。この形であれば、担任も一緒についていけるので、子どもたちの不安も最小限に抑えることができると、暗雲の中でも一筋の確かな光を見ることができました。（台風被害翌日 13 日、日本列島では未だ台風の猛威が続いていた。）

奥沢西保育園では、小ホールという一つの（トイレもついている）落ち着いた“居場所”となる環境を用意していただきました。広い園庭には、ジャングルジムやのぼり棒といった固定遊具があり「ぼくこのほいくえんがいい」と言っている子もいるほど……。宮城園長先生や調理室職員の方々のご厚意で、来週からは給食も提供して下さることになりました。年長児同士は同じ小学校に行く子もいるかもしれません。これからの数か月、奥沢西保育園にべったりとお世話になり、貴重な体験をたくさんして過ごせることを期待しています。送り迎えで距離が遠くなってしまった方もおられますのが、どうかしばらくの間よろしくお願いいたします。



残ったかば・きりん組は

かば組、きりん組は園に残ることができましたが、2階のホールとこじか組の部屋をつなげた空間での生活になります。人が通過する廊下であること、早くお昼寝をするりす組・うさぎ組に挟まれ静かに過ごさなくてはいけないこと、トイレがないのでりす・うさぎ組へ借りにいかななくてはいけないこと等のびのびと自由に過ごせる環境ではありません。それでも、担任が通路を確保し、なるべく落ち着いて過ごせるようにと工夫をして生活しています。お弁当スタイルの給食も新鮮な思いで食しています。ケータリング業者は、急な依頼にも丁寧に細かに対応してください本当に助かりました。それでも、やはり自園で調理した給食のありがたさを改めてかみしめています。

みんな一緒に異年齢保育を目指して

りす組・うさぎ組もホールで幼児クラスが遊んでいるので、ホールで遊ぶことができず、窮屈な思いをさせてしまっています。何より園庭が未だ使えない状態なのが辛いところです。散歩先もまだ被害の爪痕が残る場所が多く、どこへでも行けるわけではありません。どのクラスにも、外遊びの保障というのが喫緊の課題です。（庭の使用については、世田谷区からの指導を待っているところです。）



2階での保育が始まり 2 日が経ち、りす組と幼児クラスの子どもの交流もあるようです。子どもたちの姿を見ながら、ひとつのクラスだけで保育を考えるのではなく、お世話をする・される関係、大きい子の遊びに憧れて背伸びする関係など、各保育室を子どもたちが行き来しながら、自分の居心地の良い

空間、関係を見つけていってほしいなと考えています。みんなで育ちあう、みんなで成長を見合う、枠にとらわれない子どもの要求に合った保育の形をつくっていく、そんなことが今求められているように思います。他クラスの担任が、お子さんを見るような場面など、今与えられた環境での最善の保育を目指して変わっていく事があると思いますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

環境について

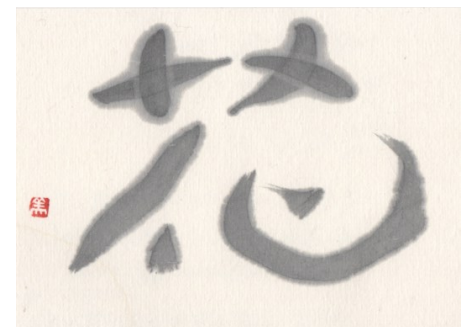
保育を再開するにあたり、保育課や保健所から指導を求めて進め、再開の判断を共にしてまいりました。とは言え、ゴミの山の間を登園する、1階の空間を通過して2階へ上がるなど心配になる周辺環境があります。ゴミは玉川清掃事務所が回収をしてくれますし、1階も業者による消毒が終わっています。水害後の保育再開という基準の無い事例の中（ここまでの被害状況は世田谷区としては未対応事例のようです）、保護者の皆さまの意見はとても貴重なものだと思っています。配慮が必要な環境での保育再開に不安を感じる事など、世田谷区とも共有してまいりますので、ぜひご意見いただければと思っています。

お休みのご協力ありがとうございました

この二日間で、ある程度1日の生活のリズムをつかむ事ができ、事務室も含めやっと一息つくことができるようになりました。無理にお仕事を休んでいただいた方もおられました。感謝いたします。産休育休中の保護者の皆さまもご理解いただきありがとうございました。延長保育も含め、皆様にご協力いただいている事項一つひとつがどこまで続けてお願いできることなのか、今後の事について職員でも改めて話を進めていきたいと思っています。お子さんにとっても、保育園がお友だちと楽しく遊ぶかけがえのない場だという事も含め。

改修工事の見通し

先日、業者と浸水被害状況と改修工事の規模や工期について打ち合わせを行いました。まだまだ見通しをお示しできる段階ではありませんが、年内完了は難しいとの話でした。3か月になるのか4か月になるのか、いずれにしても今の環境での保育を当分の間続けなくてはいけない事ははっきりしました。（11月中旬には、一定の見通しはお示しできるかと思っています。）つまり、給食の提供はその間出来ず、2時間延長保育の再開も夕食づくりという点では難しくなります。保護者同士の声の掛け合い助け合いも呼びかけましたが、生活に大きく影響することであり、長期化することは望ましくないと思っています。今後の不安や懸念など意見や思いをあげていただき、対応の参考にさせていただきます。遠慮なくお伝えください。



10月13日を振り返り・・・

台風が関東を通過し、朝5時に保育園の被害状況を確認に来た。園の駐車場や前面道路は未だ冠水しており、園内の被害を確信。恐るおそる扉を開けると、机やいすが散乱し床一面がきれいに汚泥の層で覆われていた。子どもの下足箱を見ると2段目まではっきりと汚

泥で茶色くなっている。まだびちょびちょな室内を進むと、トイレに入れた水嚢が水圧により下から押され飛ばされていた。別の場所では、床下からも水が溢れていたことが分かった。台風接近前日金曜日に対策を行ったことがことごとく自然の力に押し負かされていた。前の道路は胸までの高さになっていたというのだから、仕方がない。調理室だけは守りたく室内の扉にも土嚢を置いたが、ここも同じく被害を受けてしまっていた。

明後日の休み明けに保育園が再開できるのか、全くわからなかったが、とにかく職員が集まり作業を開始しなければいけない事は明らかだったので、駐車場の泥はきだけ先に行くことにした。避難先から帰宅途中の職員が通りかかり一緒に作業を始めると、卒園児の保護者が顔を見せる。「ちょっと待ってて」と自宅から雪かきを持っていてくれ、一緒に作業してくれる。作業中数名の保護者が様子を見に来る。「尾山台大丈夫かね」とSNSでのやり取りがされていたとのこと。「手伝いにきますよ」と言って下さるので、職員は9時に集合しますとお伝えし、門扉に「9時から作業します」と張り紙をしていったん帰宅する。



9時の作業開始からあれよあれよという間に、現役保護者・卒園児保護者・卒園児・ボランティアに来た中学生・世田谷区の私立保育園の職員の方・地域の方など80名を越える方々が集まる（職員を入れたら100名近くなります）。気付くとまた増えている。変な話だが、納涼会のようなにぎわいがあった。私は園長として呆然としてしまい、この人の数をととてもまとめあげる力などなかった。しかし心配はいらなかった。すでに、それぞれのパートで動きのリズムができていた。差し入れも次々に届く、タオル・消毒の塩素・炊き出し、手伝いに来ている方の子どもを陰ながら保育して支えるという動きまであったと伺った。さらには、園の並びで被災された在園児家庭にもしっかりと支援の手が回されていたと聞いてどこまですごいんだと震えた。

棚を開ければそこも泥、引き出しには水が満杯、外の倉庫内もしっかり被災。一つの空間が土足禁止エリアになり消毒完了、徐々にその範囲が広がっていく。床がきれいになっていく。外では巨大なエアートランポリンの洗浄も始まっている。午後3時前には、棚の中、遊具も含め大方の作業が終了。庭と駐車場にゴミの山が出来上がる。

尾山台保育園が開園して12年。積み重ねてきた保育の場が給食室が失われた。ゼロからのスタートになるという消失感がいっぱいだった。でも、作業終了で集まった皆さんに挨拶をするとき、食堂を囲む人々の顔を見たとき消失感が希望に変わった。積み重ねてきた



ものは失われずにちゃんとここにあった。この人のつながりは、どんな災害にも負けない。いや、この災害がこの繋がりをより強いものにしていないのではないかと感じた。嬉しかった。

顔の见えないところでも、多くの方が心配してくださり、お気遣いくださっている事を今でも感じるその度に心が温かくなります。

本当にありがとうございました。